

TAD

Letter 23



富山県美術館
アート & デザイン



大竹伸朗展

2023年8月5日(土) - 9月18日(月・祝)



ポスタービジュアル Design:小関学(Edit. 35)

大竹伸朗(1955-)は、1980年代初めに華々しくデビューして以来、絵画、版画、素描、彫刻、映像、絵本、音、エッセイ、インスタレーション、巨大な建造物に至るまで、猛々しい創作意欲でおびたしい数の仕事を手掛け、トップランナーであり続けてきました。近年ではドクメンタ(2012・ドイツ)とヴェネチア・ビエンナーレ(2013・イタリア)の二大国際展に参加するなど、現代日本を代表するアーティストとして海外でも評価を得ています。

2006年に開催された「全景 1955-2006」以来の大規模な回顧展となる本展では、国際展に出品した作品や、当館の所蔵する《男》(1974-1975年 165×63×53cm ミクストメディア)、《サンティアゴ》(1985年 190×370cm ミクストメディア)を含むおよそ500点を7つのテーマ「自／他」「記憶」「時間」「移行」「夢／網膜」「層」「音」に基づいて構成します。作者が「既にそこにあるもの」と呼ぶテーマのもとに半世紀近く持続してきた大竹の制作の軌跡を辿るとともに、時代順にこだわることなく作品世界に没入できる展示によって、走り続ける強烈な個性の脳内をめぐるような機会となるでしょう。

開催概要

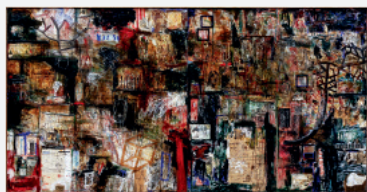
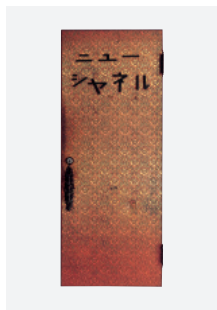
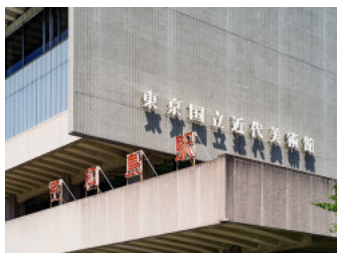
開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)
休館日 毎週水曜日
会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催 富山県美術館、東京国立近代美術館、
北日本新聞社、北日本放送
協賛 株式会社ベネッセホールディングス
公益財団法人 福武財団

富山展協賛 五洲薬品、ダイト、立山科学グループ、ユニゾ
ンリードケミカル(五十音順)
特別協力 TAKE NINAGAWA
観覧料 一般900(700)円、大学生450(350)円
高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金

イベント情報

- ギャラリートーク 担当学芸員が本展の見どころをお話します。
①8月20日(日)②9月3日(日) 各日13:30~(30分程度) 集合場所:2階 展示室2入口付近(展示室1側)
※「大竹伸朗展」観覧券が必要です。
- ポスタープレゼント 「大竹伸朗展」ポスターを入場先着30名にプレゼントします。①9月2日(土)②9月9日(土)
- 《ダブ平&ニューシャネル》デモンストレーション演奏およびサイン会
日時:9月17日(日)①11:00-11:30頃②14:00-14:30頃
会場:[デモンストレーション演奏]2階企画展示室(大竹伸朗展会場内)※「大竹伸朗展」観覧券が必要です。
[サイン会]2階ホワイエ(エレベーター付近)※当日整理券を配布予定(各回先着50名)
※内容は予告なく変更になる場合があります。 ※会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

（ 見どころと出品作品 ）



左上《宇和島駅》1997年 Photo: 岡野圭 / 中上《ダブ平&ニューチャネル》1999年 公益財団法人 福武財団
 右上《モンシェリー:スクラップ小屋としての自画像》2012年 Commissioned by dOCUMENTA (13) Photo: 山本真人
 左下《ニューチャネル》1998年 / 中下《サンティアゴ》1985年 当館蔵 / 右下《ミスター・ビーナッツ》1978-81年 個人蔵

POINT

■ [富山限定] スクラップブック最新作 & 富山県美術館ホワイエ、ガラス面を用いた大型作品が登場!

最初期の作品から近年の海外発表作、そしてコロナ禍に制作された最新作まで、およそ500点の作品が一堂に会する本展では、大竹のライフワークであるスクラップブックの最新作を展示します。さらに、このスクラップブックが富山県美術館のホワイエに大きく登場。美術館の建物全体を通して大竹伸朗の作品世界に浸ることができます。

■ 富山県美術館屋上で《宇和島駅》を展示します。

かつてJR宇和島駅で使用されていたサインが駅のリニューアルのため廃棄されると聞き、これを譲り受けた大竹伸朗が、赤いネオン管を入れて作品化した《宇和島駅》(1997年)。これまで東京国立近代美術館など数々の個展会場に設置され、話題になった作品で、富山県内では今回が初めての展示となります。大竹伸朗展の最終日の9月18日まで展示し、夜間は赤く点灯します。

■ 富山会場のために製作されたTシャツなど限定グッズも登場!

作家本人が監修した、オリジナルグッズも充実しています。スナックの看板をモチーフにした代表作《ニューチャネル》(1998年)の絵柄のTシャツに加え、富山県美術館限定販売のTシャツも登場します。また、折本7部(新聞フォーマット、B全シート、パノラマシート)、冊子1部の計8点と表紙から成る本展図録は、「印刷物への挑戦」ともいえる多種の印刷技法を用い、大竹の創作世界を紹介した逸品です。

金曜ロードショーとジブリ展

2023年10月7日(土) - 2024年1月28日(日)



©Studio Ghibli

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日(ただし10月11日、1月3日は開館)、12月30日(土)-1月2日(火)

会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4

主催 富山県、金曜ロードショーとジブリ展富山展実行委員会(富山県美術館、北日本放送、北日本新聞社)

共催 日本テレビ

特別協賛 au(KDDI株式会社)

協賛 図書印刷

特別協力 スタジオジブリ

観覧料 一般1800円、大学生1400円、高校生以下無料

本展は「日時指定予約制」です。事前に日時指定券をご購入の上、ご来場ください。

チケット販売: 富山展公式オンラインチケット、ローソンチケット

※チケットは、8月18日(金)から販売を開始いたします。

※無料対象の方(未就学児を除き)も、富山展公式オンラインチケットで日時指定予約が必要です。

※企画展入場当日に限り、コレクション展もご覧いただけます。

※各種手帳をお持ちの障がい者の方および付添者1名の観覧は無料(日時指定予約は必要)です。

※団体料金の設定や、「リピーター割」「クマ割」等の各種割引はありません。

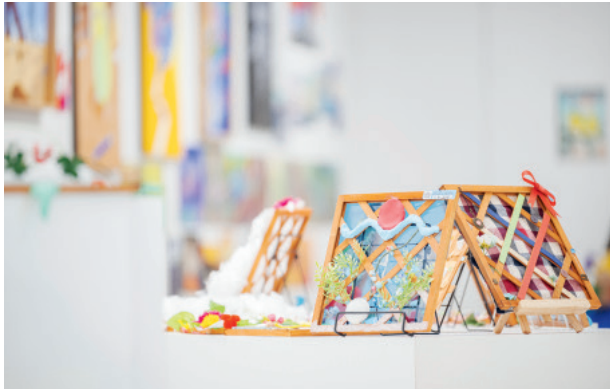
スタジオジブリは、1985年の設立以来、高畑勲監督や宮崎駿監督の作品を中心に、数々の名作アニメーションを世に送り出してきました。その作品が広く親しまれ、日本中で愛されるようになった背景には、日本テレビの長寿番組「金曜ロードショー」の存在があります。1986年に『風の谷のナウシカ』が初めて放映されて以来、多くのスタジオジブリ作品が繰り返しテレビで放映され、お茶の間に届けられました。同じ時間に、日本中でたくさんの人が同じ作品を観る、特別な体験。本展では、『風の谷のナウシカ』をはじめ、『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』など、スタジオジブリ作品の魅力を、『金曜ロードショー』で放映された時代の記憶とともにご紹介します。会場では、これまで語られなかった作品の秘密が明かされるほか、作品の世界に飛び込めるようなさまざまな空間が登場します。

まるごとTAD こども美術館

2023年10月7日(土) - 2024年1月28日(日)

まるごとTADこども美術館は、富山県美術館全館を通して子どもが楽しめる展覧会やイベント、ワークショップを実施するプログラムです。

START☆2023 2023年12月9日(土) - 2024年1月28日(日)



昨年度開催「START☆2022」の様子

「START☆2023」は、昨年度から引き続き、開催場所をTADギャラリーや館内のフリースペースを交えて開催します。観覧無料のスペースに移行することにより、これまでより気軽に、多くの県民の方々の目に触れる機会となります。

出品校は、小・中・支援学校から計4校です。授業や部活動で制作した作品展示や関連イベントとして中学生による合唱公演も開催予定です。長年続いている教育企画展も、時代に応じたかたちに変化しながら、子どもたちや先生方による教育現場の成果発表のよりよい場となることを期待しています。

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで) 後 援 富山県小学校長会、富山県中学校長会、富山県高等学校長協会、富山県特別支援学校長会、富山県私立中等高等学校協会、富山県小学校教育研究会、富山県中学校教育研究会、富山県高等学校教育研究会、富山県中学校文化連盟、富山県高等学校文化連盟、富山県特別支援学校文化連盟

休 館 日 毎週水曜日(ただし1月3日は開館)、
12月30日(土)-1月2日(火)

会 場 富山県美術館1階 TADギャラリー

観 覧 料 無料

主 催 富山県美術館

出品校

富山市立大沢野小学校、富山市立堀川小学校、砺波市立出町中学校、富山県立にかわ総合支援学校

関連イベント

砺波市立出町中学校合唱部コンサート ※日時未定。詳細が決定次第、当館ホームページ等でお知らせします。

クイズラリー(コレクション展&START展連動企画)

会期中、展示室をまわって答えるクイズラリーを開催します。

アニメーション上映会

「バンダコバンダ」(1972年、35分) 10月14日(土) ①11:00~ ②14:00~
「バンダコバンダ雨ふりサーカス」(1973年、39分) 10月15日(日) ①11:00~ ②14:00~

よしとさん(紙芝居アーティスト)によるパフォーマンス&ワークショップ

11月4日(土)、11月5日(日)

ちいさな子どもたちのための「ひよこツアー」※未就学児と家族のための鑑賞プログラム

12月4日(月)、7日(木) 2~3歳向け / 12月5日(火)、8日(金) 4~5歳向け

※イベント内容の詳細(事前申込の有無等)は、後日、当館ホームページやSNS等に掲載いたします。

「前衛」写真の精神:なんでもないものの変容

一瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄 関連イベント開催報告

会期中、上映会や講演会などを実施しました。いずれも貴重な映像や話題が豊富に盛り込まれ、作家の思いや意図を紐解く鍵となるような充実した内容で、来場者の興味を惹いていました。展覧会に沿ったテーマで鑑賞の一助となるような企画となりました。



映画「SELF AND OTHERS」 上映会

6月10日(土) 14:00~

本展出品作家で、近年再評価されている写真家、牛腸茂雄ごちょうしげお。その代表的な写真集と同名のタイトルを掲げたこの映画は、36歳の若さで夭逝した牛腸の遺した草稿や姉に宛てた手紙、撮影された場所の映像、肉声が絶妙にコラージュされ、ドキュメンタリー映画に新境地を開いた佐藤真監督の傑作です。来場者は、まるで写真の方から見詰められているような、独特の感覚を与える牛腸の作品や、淡々と流れる映像の静けさの向こうに、魂を揺さぶられるような牛腸の強い思いを感じ取っていたようでした。

講演会

「大辻清司の実験室 1949→2023」

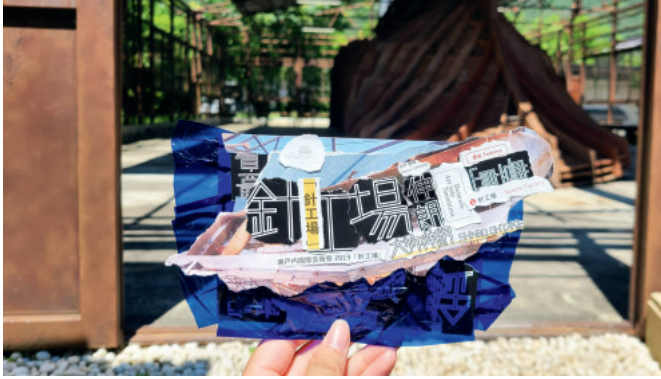
7月1日(土) 14:00~ 講師:大日方欣一氏

前衛写真協会の理論的支柱だった瀧口修造の命日である「橄欖忌」に合わせ、瀧口の思想に影響を受け、写真家を志し戦後活躍した大辻清司の活動について、本展カタログ執筆者の大日方欣一氏おひなたけいいち（フォトアーキビスト、九州産業大学芸術学部教授）にお話しいただきました。

生前、大辻と親交があり「大辻清司アーカイブ フィルムコレクション」の監修をつとめる大日方氏は、作品のスライドを見ながらその細部を分析した私見や作品成立にまつわるエピソードなどを熱く語られました。来場者は、貴重な話題や自己の見解に熱弁をふるう大日方氏のトークに熱心に耳を傾けていました。



大竹伸朗展関連オープンラボ 富山県美術館×ベネッセアートサイト直島 「針貼工場 in 富山」



写真提供:公益財団法人 福武財団

大竹伸朗展に合わせて「針貼工場」が富山県美術館に上陸!!

大竹伸朗さんと同じ「貼る(コラージュ)」という表現手法で、使い古しの紙や写真を使って、
あなただけのカードや見開きの本などをつくります。

開催概要

開催期間	2023年7月20日(木) - 9月18日(月・祝)	会場	3階ラボ(アトリエ内)
活動時間	10:00 - 12:00 / 14:00 - 16:00	定員	24名 ※1テーブルにつき4名まで
	※入場は30分前まで	対象	こども～大人までどなたでも
		協力	公益財団法人 福武財団

※都合により、おやすみする場合があります。あらかじめご了承ください。 ※参加無料 事前申し込み不要

EVENT 1

TADワークショップ「くぼたまさと工作教室～花火をつくろう～」

「わくわくさん」でおなじみの久保田雅人さんが富山県美術館にやってきます!

今回のワークショップでは、身近なものを使って、
1年を通して安全に遊べる「花火」などをつくります。

日時 2023年8月26日(土) 14:00～15:00

対象 小学生(低学年程度)とその保護者

定員 25組(各組こども1名+保護者1名)

参加無料/要事前申し込み(抽選) ※申し込み受付は終了しています。



▼ イベント ▼

EVENT 2

富山大学芸術文化学部 卒業制作展セレクション

開催期間 2023年9月2日(土) - 9月18日(月・祝)

開催場所 富山県美術館1階 TADギャラリー

主催 富山大学芸術文化学部、富山県美術館

後援 富山県

EVENT 3

GEIBUNオープンエアミュージアム in 環水公園2023

開催期間 2023年9月2日(土) - 9月24日(日)

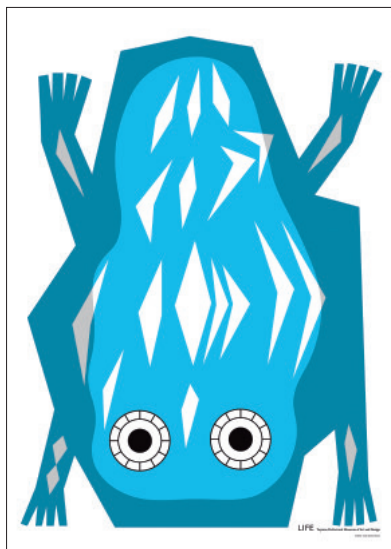
開催場所 富岩運河環水公園および富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)

主催 富山大学芸術文化学部、富山県美術館

後援 富山県

《LIFE》永井一正

2022年 紙・インクジェット 103.0×72.8cm



永井一正は、富山県美術館の前身である富山県立近代美術館において、1981年の開館告知から2016年までの企画展ポスターのほぼ全てを手掛けてきた。近代美術館との35年に及ぶ協働から生まれた、ポスターの数々。そのようなクライアントワークとは別の自主的な制作として、90年代以降、永井はテーマ「LIFE」によるシリーズ・ポスターを毎年発表している。永井は、1951年にデザイナーとして活動を始めて以来、幾何学的な形態と緻密な線描の表現によって、1枚のポスターに宇宙的な世界を広げ、国内にとどまらない評価を得てきた。

その抽象的なスタイルのポスターに、80年代からは動物、昆虫、植物が登場するようになる。人間の社会が及ぼしていく地球環境の変化が、自然や動植物を危機的な方向へと進ませることへの危機感が高まる中、永井はグラフィックデザインにできることに思いを巡らせたのであろう。この具象的なモチーフとしての生命体の登場は、大きな生命の流れを宇宙的な視点から捉えることを、地上で人間と共に在る生命体の中にも見出したと読み取れる。

新しいテーマは新しい表現を切り拓く挑戦となり、やがて「LIFE」シリーズへと繋がっていく。

2005年からは、この「LIFE」シリーズの新作には、クレジットとして当館の名称が付されるようになった。2016年に近代美術館が活動を終え、企画展ポスターのデザインは次世代のデザイナーへと繋がれたが、移転新築した当館の新しいロゴマークのデザインと毎年贈られる「LIFE」シリーズのポスターに、当館にむけた永井の想いが流れ続けている。

2022年に届いたポスターの主役は、カエルのようなが、もしかしたらカエルに似た架空の生命体かもしれない。赤、青、緑の3点制作されたいずれもが、画面いっぱい手足を伸ばす強い色面と、中央に置かれた淡い色面で構成されている。ポスターから飛び出しそうな躍動感とこちらを見つめる大きな瞳からは、小さな生命の変容に秘められた大きなエネルギーが伝わってくるようだ。

画家マティスがその晩年に、絵筆ではなく切り紙によって明るく大胆な作風を獲得したように、この1929年生まれのデザイナーも新しい表現と変容を求め続けている。次はどんな「LIFE」が永井から生み出されるのだろうか。当館のコレクション展示を訪れる皆様に、最初に見ていただきたい。

(学芸課副主幹 稲塚 展子)

富山県美術館 (TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20 (富岩運河環水公園内) tel.076-431-2711 fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>